

令和元年度

大学スポーツ振興の推進事業

(大学スポーツアドミニストレーター配置事業)

成果報告書



関西大学 スポーツ振興センター

令和元年度

大学スポーツ振興の推進事業(大学スポーツアドミニストレーター配置事業)

成果報告書

関西大学 スポーツ振興センター

<目次>

1	スポーツ分野の統括業務の実施状況について	1
2	大学スポーツアドミニストレーターの配置状況について	2
3	委託事業の実施内容	3
(1)	「関西大学スポーツ宣言」の制定と浸透	3
(2)	KSAP1[キャリア形成支援]	4
①	学生アスリート向け研修プログラムの実施	4
②	スポーツボランティアの実践	5
③	関西大学カイザーズクラブが実施するスクール事業を通じた指導者としての実践的な学びの提供、小・中学校クラブ活動支援	5
④	地域スポーツ振興を目的としたスポーツ交流イベント、一日スポーツ体験の開催	5
⑤	女性アスリートのキャリア支援	6
(3)	KSAP2[修学支援]	7
①	Portfolio の活用	7
②	目標設定・進捗把握	8
③	フォローアップ体制の充実	9
④	ピア・サポート制度の活用	10
(4)	KSAP3[意欲向上支援]	10
①	文武両道による褒賞制度の構築	10
②	指導者育成プログラムの構築、公的指導資格取得プログラムの推進	10
③	奨学金制度の活用(スポーツ振興奨学・奨励金制度の活用)	13
④	スポーツ関連科目の履修推進	13
⑤	積極的な PR・広報活動による認知度(ブランド力)向上	14

1 スポーツ分野の統括業務の実施状況について

本学では、2018年度の委託事業において、「大学のスポーツ振興」を活性化するため、現行の保健体育主事制度を改め、「スポーツ振興主事制度」を創設すべく諸規程の制定等に取り組んだ。その結果、学長・担当副学長によるガバナンス体制のもと、①学生の健康増進、②学生のスポーツ課外活動に関する支援、③スポーツを通じた社会貢献、④スポーツを通じた大学ブランド力の向上等、スポーツを取り巻く様々な課題を検討する全学的組織として、2019年4月1日付で学生センターに「スポーツ振興主事」を設置した。

設置以降、7回にわたりスポーツ振興主事会を開催し、学生アスリートを含めた学園全体の持続可能な今後の大学スポーツのあり方の根幹となる「スポーツ宣言」の制定及びスポーツ統括部局である「スポーツ振興センター」の設置に関する協議を進めてきた。その内容を基に、全学的な協議及び学内諸手続きを経て、2019年12月5日付で両議案が全学的に承認された。

その後、12月の体育会リーダーズキャンプ及び1月の体育会新春研修会において、学生センター所長兼スポーツ振興センター所長から学生アスリートに対し、スポーツ宣言制定の経緯や意義について説明を行った。また、3月には顧問・副顧問に対し、文書にて周知を行った。

スポーツ振興主事会では、スポーツ宣言制定後、複数回にわたり新たなテーマとして学生アスリートに対する修学支援策の充実・拡大について協議を行ってきた。引き続き、本学におけるスポーツ分野の統括機関として、全学的な大学スポーツの振興に貢献すべく様々な課題に取り組んでいく。

スポーツ統括部局である「スポーツ振興センター」の設置に伴い、新たにスポーツを統括する事務組織の再構築のため、引き続き検討を進める。

2 大学スポーツアドミニストレーターの配置状況について

〔求めた資質・能力等〕

スポーツアドミニストレーター（以下、「SA」という。）については、2018年度の委託事業において、すでに2名のSAを配置済みである。学生アスリートの活動に関しては、スポーツライターでもありスポーツビジネス、マネジメント研究を行ってきた永富氏、修学支援に関しては産業カウンセラー、キャリアコンサルタントの資格を有し豊富な実績を持つ岡田氏を、2018年度に公募により採用した。両名ともに本学の事業をさらに推進する能力を有する人材と判断し、2019年度も雇用を継続した。

〔役割・具体的な業務〕

SAの役割及び具体的な業務は、以下のとおりである。

SA	役割	具体的な業務
岡田 哲也	キャリア形成支援、修学支援、フォローアップ体制の充実・拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・学生アスリート向け研修プログラムへの参画・検証 ・「KAISERS Talk」（体育会学生専用相談窓口）における相談対応 ・窓口相談の内容に起因する各種講習会 ・修学支援面接におけるアドバイス ・ピア・サポート活動のコーディネート ・地域交流イベントの企画
永富 慎也	意欲向上支援に係る積極的なPR・広報活動による認知度（ブランド力）の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラブに係る情報の収集 ・各クラブの大会における現地取材活動 ・取材活動による動画撮影・記事の作成 ・HPによる記事・動画等の学内外への積極的配信 ・各種イベントにおける取材・広報活動・動画配信等の企画・コーディネート

3 委託事業の実施内容

(1) 「関西大学スポーツ宣言」の制定と浸透

2018年度の委託事業において、本学の学生アスリートにとっての基本理念・規範となるKSAPポリシーの制定について検討を進めてきた。検討の過程において、学生アスリートのみを対象としたKSAPポリシーに代えて、学生アスリートを含めた学園全体の持続可能な今後の大学スポーツのあり方の根幹となる「関西大学スポーツ宣言」（下記参照）の制定について協議を進めてきた。その後、2019年4月に設置したスポーツ振興主事会及び各学部からの意見を踏まえて精査を行い、12月5日付で全学的に承認を得た。

その後、12月の体育会リーダーズキャンプ及び1月の体育会新春研修会において、学生センター所長兼スポーツ振興センター所長から学生アスリートに対し、スポーツ宣言制定の経緯や意義について説明を行った。また、3月には顧問・副顧問に対し、文書にて周知を行った。今後は、在学生、保護者、卒業生、受験生をはじめ、広く学外へも周知・浸透を図る。

関西大学スポーツ宣言

制定 2019年12月5日

関西大学は、本学の前身である関西法律学校の時代から現在に至るまで、スポーツは、学生の健康、身体的な能力を増進させるだけでなく、学生の人格を向上させると常に考えてきました。

1922年に関西大学の学是となった「学の実化」にも、「学理と実際との調和」、「国際的精神の涵養」、「外国語学習の必要」と並んで「体育の奨励」が掲げられています。また、関西大学は100年を超えるスポーツ振興の伝統と歴史を有し、スポーツ選手の活躍は、学生、教職員、卒業生に活力と一体感を与えてきました。

最近では、スポーツの重要性、役割は国境を超えてより高まり、さまざまな人々の相互理解に寄与し、世界平和にも資するものと考えられています。同時に、大学におけるスポーツをめぐる環境も大きく変化し、多くの学生が、より多様な形でスポーツに関わるようになってきました。社会的に注目を集める選手が現れる一方で、フェアプレイの遵守や指導の在り方、クラブの運営方法などについて、大学にもガバナンスの強化とコンプライアンスの徹底がいっそう求められています。

このような状況を踏まえ、新時代に向けて、スポーツの実践・支援など、関西大学のスポーツに対する理念を示すものとして「関西大学スポーツ宣言」を定めます。

- 1 関西大学は、スポーツが学生の人間的な成長に貢献すると考え、スポーツを大学教育における重要な構成要素と位置づける。
- 2 関西大学は、性別や障がいの有無、そして身体的能力の相違などを超えて、すべての学生が多様な形でスポーツに関わることができるよう、環境の整備に努力する。
- 3 関西大学は、スポーツに関わるすべての学生に対して、学業を優先するとともに、フェアプレイの精神を守り法令を遵守することを求め、そのための施策を講じる。
- 4 関西大学は、スポーツ活動の場における暴力、ハラスメント、差別、不正を許さず、これらの発生の防止に取り組むものとする。
- 5 関西大学は、大学が持つスポーツに関連する人的資源、学術研究資源、施設等を有効に活用し、スポーツを通じた地域社会の活性化に貢献する。

(2) KSAP1 [キャリア形成支援]

①学生アスリート向け研修プログラムの実施

1年次	法令遵守（コンプライアンス）	未成年飲酒や喫煙、通学マナーなど、事例をもとに法令順守について学ぶ	5月実施済
1年次	大学スポーツの意義と4年間の過ごし方	現役指導者の講演を通じて、勉強とスポーツの両立や意義、過ごし方を学ぶ	6月実施済
1年次	フレッシュャーズキャンプ	グループワークを中心に、目標を考え学生アスリートの自覚を醸成する	8月実施済
1年次	フォローアップ研修	フレッシュャーズキャンプで設定した目標に対するフィードバックを行う	2月実施済
2年次	2年次のためのスポーツとキャリアデザイン	SAが講師となり、2年目によるモチベーションの低下防止を学ぶ	6月実施済
3年次	就職活動準備講座	資格を有するSAと4年次生が就活のポイントや体験を伝え、意識を高める	10月実施済
3年次	就職活動対策講座	外部講師を招き、体育会学生に特化した自己分析や企業研究、自己PRを学ぶ	12月実施済
3年次	OB・OGによる学生アスリート対象業界研究セミナー	社会で活躍するOB・OGからの実体験・アドバイスを参考に、就活に役立てる	2月実施済
3・4年	リーダーズキャンプ	主将・主務が一堂に会し、グループワークで理想のリーダー像を構築する	12月実施済
全員	ATルーム・パワージム オリエンテーション	AT（リハビリ）ルーム・トレーニングルームの効果的な使用法を学ぶ	4・5月実施済
全員	応急処置講習会	応急処置の方法を学ぶ	5月実施済
全員	熱中症講習会	熱中症発症時の対処方法等を学ぶ	5月実施済
1年次	新入生トレーニング講習会	パワージムでのトレーニング方法を学ぶ	6月実施済
全員	栄養講習会・パワージム講習会	栄養管理とトレーニングについて学ぶ	7月実施済
全員	赤十字水上安全法救助員養成講習	水難救助やAED等を使用した救命処置を学ぶ	9月実施済 2月実施済
全員	緊急時連絡講習会	けが人への対応を学ぶ	コロナウイルスの影響により延期



リーダーズキャンプの様子



就活対策講座の様子

②スポーツボランティアの実践

本学が協賛し、2019年12月1日（日）に開催された第9回大阪マラソン2019には、給水ボランティアや力持ちボランティア（コース横断が必要な方の自転車等の運搬サポート）として、本学学生アスリートが参加した。

その他、アメリカンフットボール部や陸上競技部をはじめとして、各競技大会やスポーツイベントの運営補助等にも積極的に参加しており、スポーツを「支える」側の視点を多くの学生アスリートが経験し、その重要性を感じていると思われる。その経験が、自らの競技力向上のみならず、卒業後のキャリアや生き方に繋がると考えられることから、引き続き推進していく。

(2019年度実施例)

クラブ名	事業名	実施内容	実施時期
アメリカンフットボール部	EXPO FLASH CUP（フラッグフットボール大会）	大会の運営補助及び普及のための教室開催	3月
相撲部	わんぱく相撲	大阪府下で開催されたわんぱく相撲大会の運営補助	4月、5月
準硬式野球部	大阪マラソン2019	ランナーに対する給水活動及び沿道での募金活動	12月
陸上競技部	スポーツフェスタ	知的・発達障がい者の体育活動の成果発表の機会を提供	10月

③関西大学カイザーズクラブが実施するスクール事業を通じた指導者としての実践的な学びの提供、小・中学校クラブ活動支援

ア 「特定非営利活動法人関西大学カイザーズ総合型地域スポーツ・文化クラブ」スクール事業

アイスホッケー、サッカー、器械体操、チアダンス、バスケットボール（2019年5月スタート）、テニス（2019年9月スタート）の各スクール事業において、学生アスリートが子どもに対する指導に関わってきた。2020年6月からは、新たに卓球のスクールが開講予定である。

また、12月8日（日）に開催された「まちFUNまつり」（約7,000名が参加）の企画として、バスケットボールをはじめとする6つの競技種目で構成される「スポーツスクール体験」を実施した。

イ 小・中学校クラブ活動支援事業

野球部、アメリカンフットボール部、ソフトボール部、ソフトテニス部等で、学生アスリートが小・中学校に出向いて指導教室及び交流会などのクラブ活動支援を実施した。

上記のすべてにおいて、学生アスリートが参画し、スポーツを通じて技術及びメンタルの両面から指導している。上記事業を踏まえ、学生アスリートが「教える」ことの難しさ及び自分自身の理解度を知る貴重な経験を踏まえ、将来の指導者又は教員への進路を考える機会を提供している。

④地域スポーツ振興を目的としたスポーツ交流イベント、一日スポーツ体験の開催

イベントの実施＜11月、12月、1月、2月＞

	実施日	参加対象	協力団体・協力人数
①	2019年11月27日	関西大学初等部（4年生対象）	体育会3クラブ・約15名
②	2019年12月1日	吹田第一中学校区（小・中学生対象）	体育会13クラブ・約150名

③	2020年1月25日	地域の小・中学生対象	バレーボール部・約20名
④	2020年1月26日	豊津中学校区（小・中学生対象）	体育会12クラブ・約250名
⑤	2020年1月29・30日	吹田市立千里第二小学校（全児童対象）	陸上競技部・約5名
⑥	2020年2月22日	佐賀県武雄市内の小学生約20名	陸上競技部・2名

本学では、地域振興・地域密着型のスポーツ交流イベント、一日スポーツ体験を積極的に実施し、多くの学生アスリートが参画している。

上記①は併設校の生徒を対象に、②④⑤は学校及び地域教育協議会と連携して該当校区の小・中学生を対象として、一日スポーツ体験イベントを実施した。

⑥は、大学における連携協定の一環として実施しているもので、今年度は陸上教室（走り方講座）の要望を受け、陸上競技部部員2名を派遣した。

③は、武庫川女子大学との大学間連携事業の一環として、初めてバレーボール部女子の交流戦を実施。交流戦前には、観戦した地域の小・中学生約90名を対象にバレーボール教室を開催し、両大学の学生アスリートが指導・交流を実施した。



バレーボール教室の様子



バレーボール交流戦の様子

⑤女性アスリートのキャリア支援

本学における女性アスリートは、年々増加傾向にあり、そのキャリア支援施策は大きな課題となっている。女性アスリートは、就職活動や卒業後のキャリア、人生設計において、非常に高い意識を持っていると考えている。その意識・考えを具体化するためにも、OGや女性アスリートの生の声は非常に重要である。

研修プログラムの就活講座の一環として独自に開催を計画していたが、検討の結果、開催要望のあった企業数社を学内に招いて、学生アスリートを対象にしたOB・OGによる業界研究セミナーに変更して開催した。女性アスリートには、そのセミナーへの参加を促すと同時に、学内で開催されたキャリアセンター主催の業界研究セミナーへの積極的に参加するよう周知を行った。

〔OB・OGによる学生アスリート対象業界研究セミナー〕

開催日時	企業名	参加人数
2月10日（月）	トヨタ自動車株式会社	15名
2月18日（火）	日本生命保険相互会社	28名
	三井住友海上火災保険株式会社	30名

(3) KSAP 2 [修学支援]

①Portfolio の活用

KSAPプログラムの推進に伴う「人間形成力」と「競技力向上」の分野での過程と結果を記録することを検討してきた。具体的には、各種研修や地域貢献活動、修学状況等の人間形成に係る要素と、競技における目標設定や活動状況、達成度、チーム内での役割といった競技力向上に係る要素を、学生アスリート各個人ごとにアンケートや専用シート等を用いてデータを蓄積し、分析・活用する仕組みを構築することである。

昨年度から、新しいPortfolioシステムの開発も検討してきたが、時間的・予算的な制約もあることから、代わって学内イントラネットのアンケート機能を利用してデータ収集を行った。今後、継続したデータ収集と、収集したデータの分析及び有効な活用方法を検討していく。

体育会学生は、全員このアンケートに回答してください。2018年度のクラブでの個人の活躍と学業成績の推移を管理する目的で、競技成績は、大島賞の参考資料となります。

体育会所属名
所属のクラブ名称を選択してください。 ※
以下から1つを選択してください。 ▼▼

体育会研修プログラム関係
これまで参加した体育会研修を選択してください(複数選択可)。

- スポーツ入部生対象入学前オリエンテーション
- 進路遵守 (コンプライアンス)
- 大学スポーツの意義と4年間の過ごし方
- フレッシュマーズキャンプ
- 2年次のためのスポーツとキャリアデザイン
- 企業人事担当者による就職活動アドバイス
- 体育会08・06 (4年次) による就職活動アドバイス
- ESアドバイス&模範面接
- アスレティックトレーナー・ストレッチ&コンディショニング& オリエンテーション
- ESアドバイス&模範面接
- リーダースキャンプ
- 応急処置講習会
- 緊急時連絡講習会
- 集中受講講習会
- 栄養講習会・パフォーマンス講習会
- 赤十字水と安全活動救急員養成講習
- その他

その他を選択した方のみ質問です。その他の具体的な内容を記入してください。

競技成績 (1)
今まであなたが活躍した競技上の成績でよかったものを記入してください(同種除く)。競技成績 (1)～(3)にもっともよかったと考えているものを記入してください。

①年月日 年 月 日
年月日(定型項目)

②大会名と順位や受賞

③その根拠となるホームページのURLなど

競技成績 (2)

①年月日 年 月 日
年月日(定型項目)

②大会名と順位や受賞

③その根拠となるホームページのURLなど

競技成績 (3)

①年月日 年 月 日
年月日(定型項目)

②大会名と順位や受賞

③その根拠となるホームページのURLなど

競技成績 (4)
その他特筆すべき事項があれば記入してください。
(4) 競技成績において特筆すべき事項があれば、記入してください。
(全角)60字以内)

学業成績 (1)
取得単位 18単位の 1年次の 場合 18-15=+3 なので、○
取得単位 42単位の 2年次の 場合 42-45=-3 なので、×
となります。

学業成績で今年度春学期までの取得単位数 (◎は学年ごとに設定) ◎は 単位数
◎1 - (◎+◎) : ±数字、1桁をつけた計算結果
結果 ↑上回る (+) =◎、下回る (-) =× ※は次の疑問へ

学業成績 (2)
学業成績で×になった方のみ記入ください。今後の学習で改善策を具体的に記述してください。
(全角)500字以内)

来年度の取り組み

(1) 表彰を得られた場合の感謝についてどのようにしたいか記入してください。 ※
(全角)400字以内)

(2) 競技場の目標について記述してください。 ※
(全角)400字以内)

(3) 休学上の取り組みについて、あなたが思っている卒業に向けてのプランがあれば記入ください。 ※
(全角)400字以内)

送信

※印刷用です

②目標設定・進捗把握

チーム目標は、各クラブにおいて年度当初に設定されており、チームスローガンを掲げるなど各クラブで工夫されていることを、毎年実施するクラブ面談等でも確認している。目標に向けた戦績状況は、随時報告がなされる仕組みを構築しており、把握できている。

個人目標については、1年次のフレッシュャーズキャンプにおいて4年間での戦績目標とあるべき姿・なりたい姿を全学生アスリートが自ら考え設定し、半年経過後の2月に開催したフォローアップ研修においてフィードバックを実施した。

<各クラブの目標大会及び2019年度の結果>

クラブ名	大会名	2019年度の結果
アーチェリー部	全日本学生アーチェリー王座決定戦	男子10位、女子11位
アイススケート部	日本学生氷上競技選手権大会フィギュア競技	男子団体7・8級 優勝
アイスホッケー部	日本学生氷上競技選手権大会	ベスト8
アメリカンフットボール部	甲子園ボウル	—
空手道部	全日本大学空手道選手権大会	男子団体組手2回戦
器械体操部	全日本学生体操競技選手権大会	男子2部団体9位
弓道部	全日本学生弓道王座決定戦	男子準優勝
剣道部	全日本学生剣道選手権大会	—
	全日本学生剣道優勝大会(男子)	—
	全日本女子学生剣道優勝大会(女子)	—
拳法部	全日本学生拳法選手権大会	女子団体優勝 男子団体4位
	関西学生春季男子2部校学校対抗戦&1部校学校対抗戦	女子1部7位 男子2部2位
ゴルフ部	関西学生秋季男子2部校学校対抗戦&1部2部入替戦	女子1部7位 男子2部5位
	総理大臣杯	3位
サッカー部	全日本大学サッカー選手権	—
	全日本大学対抗選手権自転車競技大会(レース班)	—
自転車部	全日本学生選手権(サイクルサッカー班)	—
	全日本学生スポーツ射撃選手権大会総合団体男子・女子	出場(台風のため中止)
柔道部	全日本学生柔道優勝大会	男子ベスト32
	全日本学生柔道体重別選手権大会	男子ベスト16
準硬式野球部	文部科学大臣杯 全日本大学準硬式野球選手権大会	—
水上競技部	日本学生選手権水泳競技大会	男女出場
スキー競技部	全日本学生スキー選手権大会	男子2部12位
漕艇部	全日本大学選手権大会	男子団体舵手付フォア8位
ソフトテニス部	全日本学生ソフトテニス選手権大会	大学対抗男子3位 大学対抗女子3位
ソフトボール部	全日本大学ソフトボール選手権大会(男子)	ベスト8
	全日本大学ソフトボール選手権大会(女子)	出場
	全日本総合女子選手権大会(女子)	—
卓球部	全日本大学総合卓球選手権大会	女子ベスト32
テニス部	全日本大学対抗テニス王座決定試合	女子準優勝、男子3位
なぎなた部	全日本学生なぎなた選手権大会	女子団体(試合)3位
馬術部	全日本学生馬術大会	団体(総合)11位
バスケットボール部	(男子)全日本大学バスケットボール選手権大会	—
バスケットボール部	(女子)西日本バスケットボール選手権大会	出場

バドミントン部	全日本学生バドミントン選手権大会	—
バレーボール部	秩父宮賜杯全日本バレーボール大学選手権大会	女子ベスト16、男子2回戦
ハンドボール部	全日本学生ハンドボール選手権大会	女子ベスト16、男子出場
フェンシング部	関西学生リーグ戦	男子2部(総合)2位
	関西学生フェンシング選手権大会	男子2部(エペ)5位
ボクシング部	関西学生リーグ戦	1部5位
ホッケー部	(男子)全日本学生ホッケー選手権大会	ベスト8
	(女子)全日本学生ホッケー選手権大会	—
野球部	全日本大学野球選手権大会	—
	明治神宮野球大会	準優勝
ヨット部	全日本学生ヨット選手権大会	—
ラグビー部	全国ラグビーフットボール選手権大会	—
陸上競技部	関西学生陸上競技対校選手権大会	男子総合1部8位 女子総合1部9位
	日本学生陸上競技対校選手権大会	女子団体総合42位
レスリング部	全日本選手権	—
応援団 バトン・チアリーダー部	JAPAN CUP 2019 日本選手権大会	11位 (初の決勝トーナメント進出)

③フォローアップ体制の充実

入学前オリエンテーション(3月)、修学支援面接(5月・10月)、文書作成能力向上講習会(3月・5月・6月・10月・11月、計6回)等のスポーツ入試入学生を対象としたプログラムと、学生アスリート全員を対象にした研修プログラムをベースに、フォローアップ体制の充実を図った。

昨年度から、修学支援の拡充に着手しており、入学前オリエンテーションにおける実施時間拡大及び新規プログラム導入、成績不良者に対する修学支援面接に、キャリアコンサルタント資格を有するSAが教職員とともに同席しての現状把握とアドバイス、同SAによる学生アスリート専用相談窓口「KAISERS Talk」の運営、さらには個別相談に起因する個別の講習会を実施した。

全学的な修学支援のさらなる充実・拡大を目指して、スポーツ振興主事会にて協議を進めている。

＜「KAISERS Talk」2019年4月～2020年3月までの運営状況＞
〔クラブ別実績(延べ件数)〕

クラブ名	件数	クラブ名	件数
バレーボール部	13件	アイスホッケー部	2件
陸上競技部	8件	ラグビー部	2件
射撃部	8件	漕艇部	1件
弓道部	6件	アイススケート部	1件
剣道部	6件	フェンシング部	1件
バスケットボール部	3件	計	51件

〔相談内容内訳〕

内容	件数	内容	件数
就職活動に関する相談	19件	メンタルトレーニングに関する相談	11件
個人的悩みに関する相談	16件	修学に関する相談	5件
		計	51件

④ピア・サポート制度の活用

2018 年度事業で初めて実施した、サッカー部のモデル事業を拡大してクラブ横断型で学生アスリートが学び合う「アスリート勉強会」を7月・9月・1月・3月に実施した。参加者数・参加クラブ数ともに増加しており、徐々に浸透してきていることを実感している。修学面で悩みを抱える学生アスリートの一助となるよう、さらに拡大・浸透を図っていく。

また、アスリート以外の学生で構成されたピア・スポーツコミュニティの活動において、まだ学生アスリートとの連携には及んでいないが、SAがコーディネーターとなり、双方の連携について検討を行っている。

(4) KSAP3 [意欲向上支援]

①文武両道による褒賞制度の構築

例年3月に実施する「体育振興大島鎌吉スポーツ文化賞・体育会覇業披露式」において、文武両道による褒賞制度の構築について検討を行ってきた。実施についてはさらなる協議が必要との判断に至り、次年度以降の実施に向けて検討することとなっている。

なお、これまでは体育会に所属する学生のみを対象としていたが、表彰要項を改正し、体育会以外の学生アスリートも対象に含めることになった。引き続き、表彰委員会、スポーツ振興主事会等で協議を行い、文武両道の趣旨のもと、顕著な成績を収めた学生アスリートの新たな評価指針となるよう検討を進めていく。

【2019年度受賞者数】個人21名、団体3クラブ



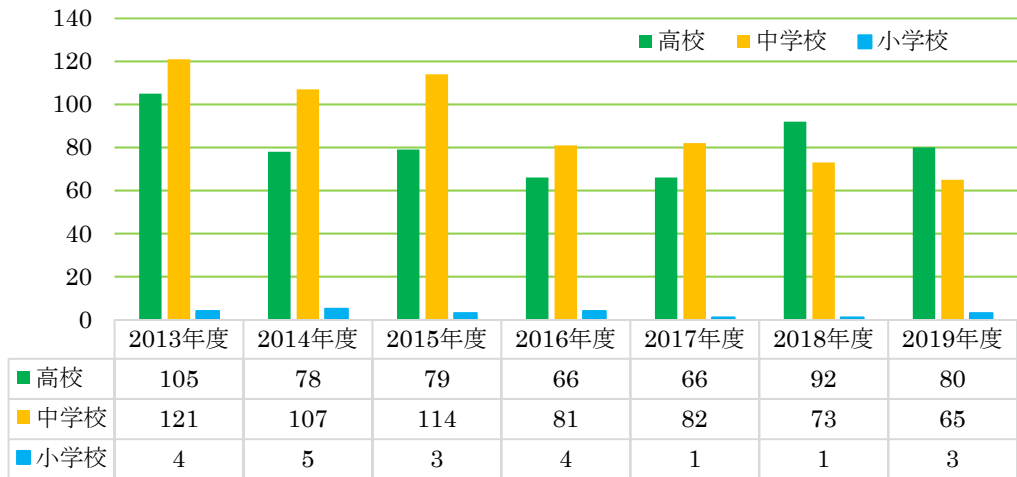
2019年度受賞者 集合写真

②指導者育成プログラムの構築、公的指導資格取得プログラムの推進

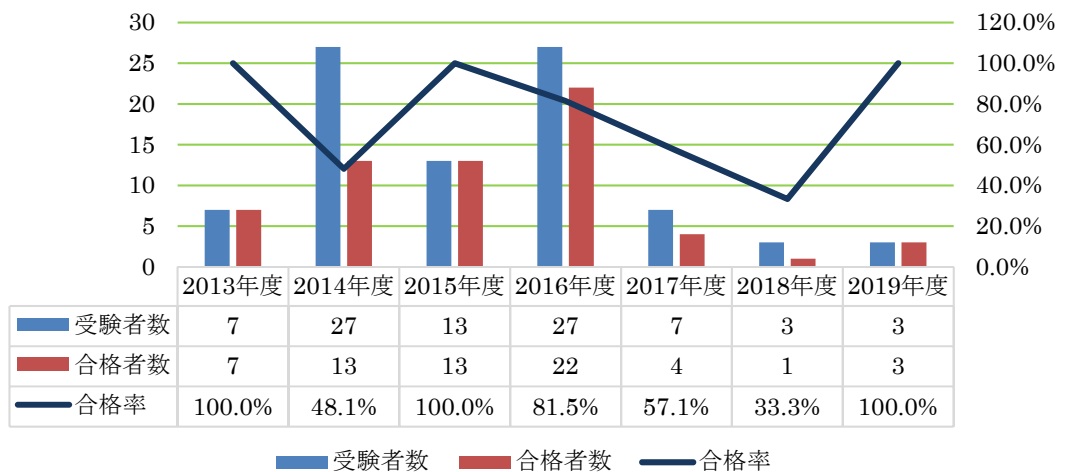
人間健康学部 に在籍する学生アスリートは、指導者を目指す学生も多く、教職免許、体育協会指導者ライセンス、レクリエーションインストラクター及び日本赤十字の救急救命関連などの資格取得者の人数及びその推移は次の図1～7のとおりである。今後も、免許・資格取得を促し、希望者に対して環境を整備していく予定である。

また、アスレティックトレーニングルームならびにパワージムにおいて、専属トレーナー・コーチの下で学生トレーナー・コーチが活動のサポートを行いながら、知識の習得・スキルアップ・実践に励んでおり、将来的な資格取得も選択肢の一つであると考えられる。

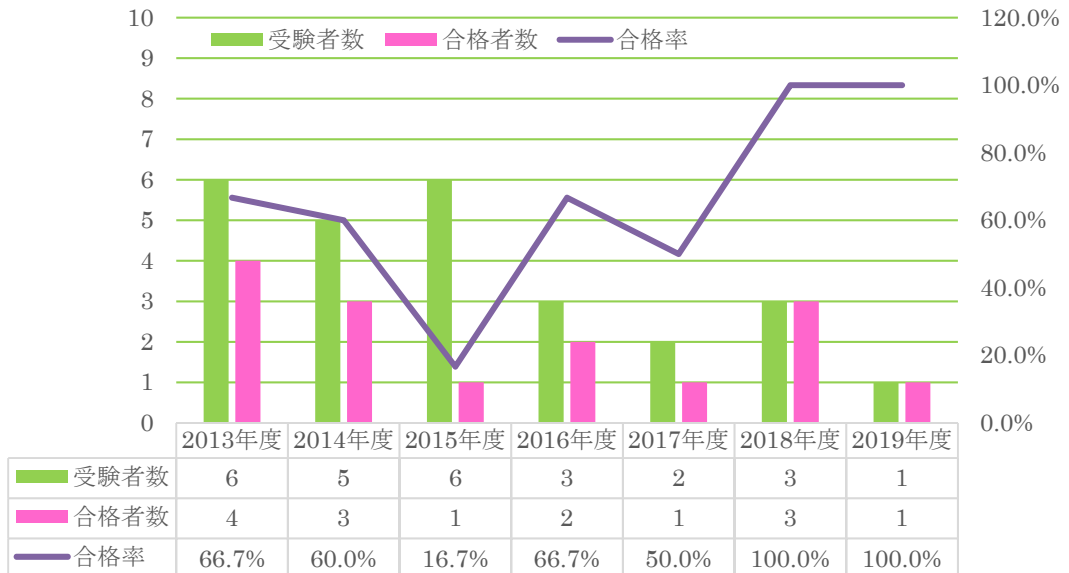
【図1】教員免許取得者



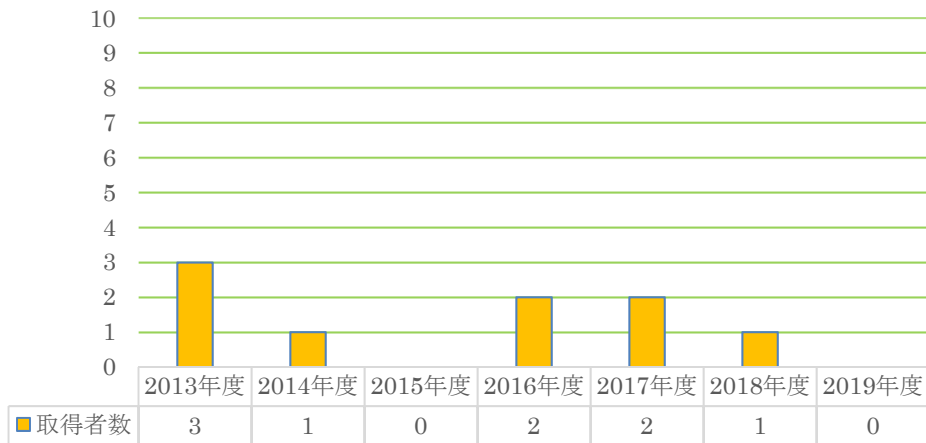
【図2】健康運動実践指導者資格受験者及び合格者数



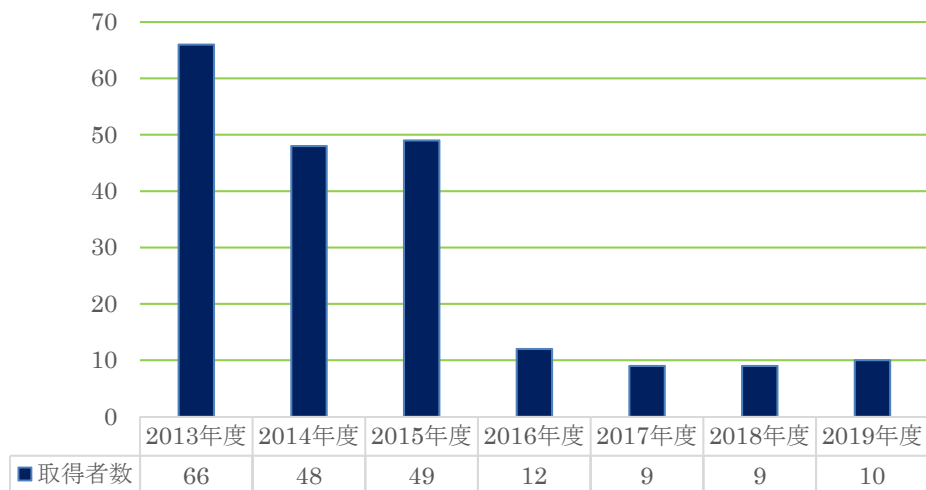
【図3】健康運動指導士受験者及び合格者数



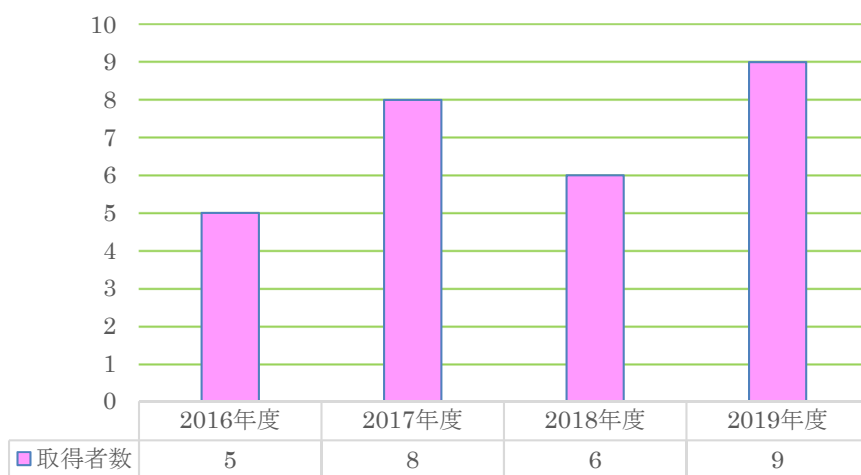
【図4】公認スポーツ指導者（スポーツリーダー）取得者数

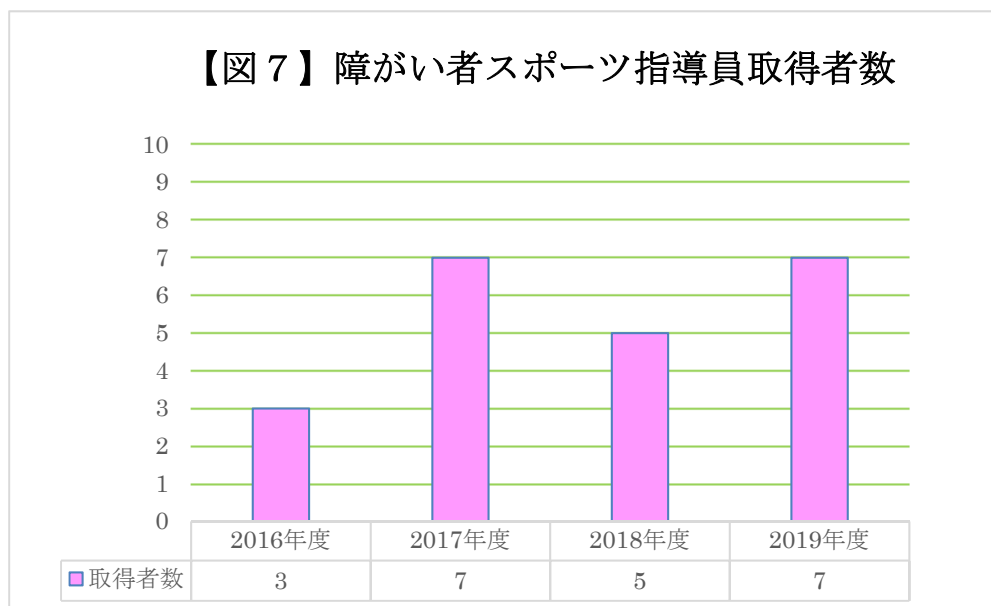


【図5】公認スポーツ指導者（共通Ⅰ+Ⅱ+Ⅲ）取得者数



【図6】レクリエーション・インストラクター取得者数





③奨学金制度の活用（スポーツ振興奨学・奨励金制度の活用）

競技成績に基づいた奨学金制度「スポーツ振興奨学・奨励金制度」は、個人ならびに競技団体への摘要が可能なため、意欲向上に繋がる制度であると考え、例年募集を行っている。2020年度の募集を開始するにあたり、基準を満たしている学生アスリートに漏れなく給付するため、実施要項の策定、対象者の抽出など、より多くの学生アスリートに制度を活用してもらえするための準備を完了している。

【2019年度給付者数】個人 53名、団体 6クラブ

④スポーツ関連科目の履修推進

教育推進部において、2019年4月にスポーツ入試入学生を対象とした履修機会の拡大を目的に、スポーツ関連共通教養科目の改定を実施した。スポーツ振興センターでは、2019年4月のスポーツ入試入学生に対し、入学前オリエンテーションにてその旨を案内し、多くの学生アスリートが履修し単位を修得している。引き続き、在学生はもちろん、2020年4月入学生の入学前オリエンテーションでも履修を促し、学業とスポーツ活動の両立とともにスポーツ活動に有用な知識習得に繋げる。

<2019年度開講科目>

授業科目名	学期	時間割	配当年次	単位数	履修者数
関西大学スポーツ文化論	秋	金 5	1年次～	2単位	43名
スポーツ運動学概論	秋	木 2			12名
スポーツ社会学概論	春	水 2			17名
スポーツ心理学概論	秋	金 3			4名
スポーツ栄養学概論	秋	金 3			53名
コーチングの科学	春	木 2			39名
トレーニング科学概論	秋	金 2			15名
コンディショニング科学概論	春	金 3			42名

⑤積極的なPR・広報活動による認知度（ブランド力）向上

これまで戦績の公表に留まっていた広報活動において、SA が中心となって情報収集・取材活動・動画撮影・映像配信を行い、ホームページやSNS、体育施設、イベント等で積極的に発信を行ってきた。2019年4月以降、インタビュー動画を中心に105件のPR動画を作成し、動画を活用しながら130件の記事を当グループHPに掲載した。学生アスリートはじめ指導者からも好評を博しており、今年度においては創部以来の最高成績や数年ぶり・数十年ぶりの好成績をあげるクラブならびにアスリートが続出した。

積極的なPR・広報活動が学生アスリートの意欲ややりがい、意識を向上させるとともに、互いに応援し合う文化を醸成し、好成績に繋がっていると確信している。さらには、これら学生アスリートの活躍が、関西大学ならびにKAISERSの活性化・認知度の向上に繋がっていくと考えている。



インタビューの様子

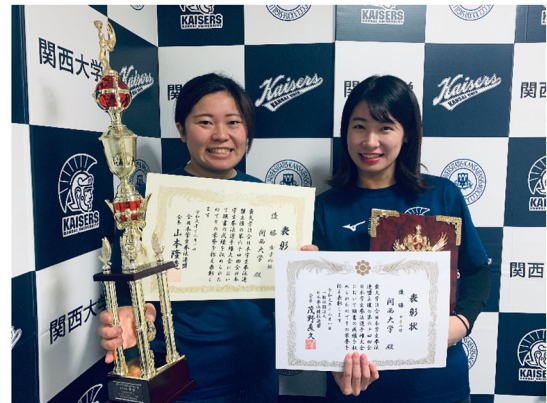
2019.12.06 お知らせ 拳法部

【拳法】全日本学生選手権女子の部団体で2年ぶり11回目の優勝！ 個人賞では岡本敦美主将がMVP

第64回全日本学生拳法選手権が2日、大阪府立体育会館で行われ、本学拳法部が女子の部団体の決勝で立命館大学を2-1で破り、2年ぶり11回目の優勝を果たしました。また、個人賞が発表されて岡本敦美・女子主将(文学部4年)が最優秀選手賞(MVP)に選ばれました。

2回戦から登場した関西大学は、初戦で日本大学を3-0で破ると、続く龍谷大学との準々決勝は先鋒の尾藤はるな(文学部2年)が勝利して1-0で格闘を制し、準決勝では大阪市立大学を3-0で圧倒して、決勝まで勝ち上がりました。決勝では昨年の同大会で8連覇を決勝で阻止された立命館大学に雪辱しました。

チームの主将で団体の部では大將を務めた岡本と、新チームの主将で中堅の藤澤志保(文学部3年)へのインタビュー動画は下記(写真の下)のリンクからご覧いただけます。



本学拳法部の岡本主将(左)と藤澤

【動画】全日本学生拳法選手権女子団体の部で2年ぶり11回目の優勝を果たした岡本主将と藤澤のインタビュー
http://www.kansai-u.ac.jp/sports/media/IMG_D_DA5211.MOV

HP掲載記事



関西大学体育会は、45 のスポーツ系クラブを有し約 2,500 名の学生が所属しており、“KAISERS”と総称されている。KAISERS(カイザーズ)とは、ドイツやロシアで用いられた皇帝の称号(KAISER:カイザー)を表したもので、皇帝が指揮官として戦いに赴く勇姿にスポーツマンシップを重ね合わせ、常に勝利・頂点を目指す姿勢を見習ってつけられたチームネームである。これは、全国の大学に先駆けた取り組みであり、ロゴガイドラインを定め、統一したロゴマーク及びスクールカラーを各種スポーツのユニフォームや応援旗などに使用し、練習・試合に臨んでいる。このような先進性・独自性のある取り組みにより、体育会全体の帰属意識を醸成し、高い組織力を保つことにつながっている。

令和元年度

大学スポーツ振興の推進事業

(大学スポーツアドミニストレーター配置事業)

成果報告書

2020年3月19日

関西大学 スポーツ振興センター

作成